


留萌市 るもいし

面積	297.84km ²
人口	20,715人
市町村名の由来	アイヌ語「ルルモツベ」(静かなる川)

概況 留萌管内の行政・経済の中心都市です。かつてニシン漁で栄え、現在は塩カズノコの加工が全国の生産量の約半分を占めています。留萌沿岸の激しい波浪は「世界三大波濤(はとう)」の一つといわれています。

特産品 塩カズノコ、うるち米、鱈の親子漬、たらこ、鱈そば

主な風土資産 黄金岬、留萌川、るもっぺ憩いの森、神居岩温泉、海のふるさと館




増毛町 ましけちょう

面積	369.71km ²
人口	4,222人
市町村名の由来	アイヌ語「マシユキニ」(カモメの多いところ)

概況 幕末の北方警備や交易の要所として栄え、かつて管内の行政・経済の中心地だったこともあり、歴史的建造物が数多く残っています。現在は、温暖な気候を利用した果樹栽培が盛んであり、道内最古にして、最北の造り酒屋を持つ町です。

特産品 たこのやわらか煮、さくらんぼ、りんご、国産(清酒)、甘えび

主な風土資産 霧寒別岳、増毛リンゴ、旧商家丸一本間家、増毛山道、増毛厳島神社




小平町 おびらちょう

面積	627.22km ²
人口	3,087人
市町村名の由来	アイヌ語「オビラウシベツ」(川口に崖のあるところ)

概況 かつて鱈漁で栄えた歴史を今に伝える国指定重要文化財「旧花田家番屋」が有名な町です。町名の由来である小平薬川は白亜紀の化石の産地として知られているほか、夏は海水浴や海洋スポーツ、キャンプ場が人気で、冬はウィンタースポーツが盛んです。

特産品 たこの燻製、活ホタテ、アイポリーメロン、おびら和牛

主な風土資産 小平薬川、重要文化財「旧花田家番屋」、おびらしべ湖




苫前町 とままえちょう

面積	454.60km ²
人口	3,034人
市町村名の由来	アイヌ語「トマオマイ」(エゾエンゴサクのあるところ)

概況 日本海オロロンラインのほぼ中間点に位置しており、日本海から吹き付ける強い風を利用した風力発電、風あげ大会が有名な町です。基幹産業は農業・漁業です。

特産品 糠鯨、スイートコーン、メロン、甘えび、たこ

主な風土資産 ローソク岩、上平グリーンヒルウインドファーム、岩見の一本松、三毛別顕事跡地



羽幌町 はぼろちょう

面積	472.65km ² (天売5.47km ²) (焼尻5.19km ²)
人口	6,796人(天売278人) (焼尻180人)
市町村名の由来	アイヌ語「ハボロベツ」(流れる広大な川)

概況 天売島と焼尻島という二つの離島を持つ町で、基幹産業は農業・漁業です。天売島は海鳥の宝庫で、何十万羽というウトウがこの島に生息しています。また、焼尻島の羊(サフォーク)は高級食材として、珍重されています。

特産品 サフォーク、甘えび、たこ、メロン、ねばり長いも

主な風土資産 天売島の海鳥繁殖地、焼尻オンコの荘、はぼろバラ園、羽幌炭鉱、北海道海鳥センター



初山別村 しょさんべつむら

面積	279.52km ²
人口	1,152人
市町村名の由来	アイヌ語「ソエサンベツ」(滝がそこで流れ出ている川)

概況 管内のほぼ中央に位置し、みさき台公園には村のシンボルとして「しょさんべつ天文台」があります。豊かな自然と美しい景観に恵まれた村です。

特産品 ほしおこし、真ふく、「飲む」みりん

主な風土資産 金比羅岬、しょさんべつ温泉・岬の湯、しょさんべつ天文台、しょさんべつ海牛の化石




遠別町 えんべつちょう

面積	590.80km ²
人口	2,626人
市町村名の由来	アイヌ語「ウイエツ」(相語る川)

概況 基幹産業は農業・漁業で、稲作(もち米)の北限でもあります。日本海オロロンラインは、この町に入ると沿岸風景から一転して、牧畜風景が広がります。

特産品 もち米、ひらめ、ホタテ加工品、北吹雪(純米酒)

主な風土資産 金浦原生花園、ルベシの大山松、旭温泉、遠別水稲発祥地の碑、北浜遺跡



天塩町 てしおちょう

面積	353.56km ²
人口	3,006人
市町村名の由来	アイヌ語「テシュ」(薬・ヤナ:魚を獲る仕掛け)

概況 天塩川の河口に位置している町で、基幹産業は酪農と漁業です。酪農では環境整備に力を入れ、良質乳の生産向上に努めています。漁業では天塩の大きなしじみ貝が有名です。

特産品 しじみ貝、てしおキムチ、てしおChuChuプリン、手づくりチーズ

主な風土資産 天塩川、天塩のシジミ貝、鏡沼海浜公園、てしおこもればの森、川口遺跡



幌延町 ほろのべちょう

面積	574.10km ²
人口	2,294人
市町村名の由来	アイヌ語「ホロヌフ」(大平原)

概況 サロベツ原野の南端で、北緯45度線が横断する酪農の町です。トナカイ観光牧場では、幻の青いケシを見ることができます。

特産品 合鴨の燻製、トナカイ肉の加工品

主な風土資産 サロベツ原野、幌延町トナカイ観光牧場、幌延ビジターセンター、バンク沼

面積は令和2年10月1日現在全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院調べ)、人口は令和2年1月1日現在住民基本台帳人口(北海道総合政策部地域振興局市町村課調べ)

新たな北海道総合開発計画

～世界水準の価値創造空間を目指して～

目指すは「世界の北海道」

～新たな北海道総合開発計画を推進します～

これからの北海道の戦略

「食」「観光」が戦略的産業

- 人口減少時代にあっても、

- ① 北海道には世界と競争し得るポテンシャル
- ② アジアなど世界の市場が拡大傾向

農林水産業、観光等を担う「生産空間」を支え、「世界の北海道」を目指します

次の10年(新計画)の重点的取組

- (1) 交通ネットワーク強化と重層的な機能分担
- (2) 農林水産業の競争力・付加価値向上
- (3) 世界水準の観光地域づくり
- (4) 地域づくり人材の発掘・育成

